

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋第4地方合同庁舎	階数	地下1階、地上11階
建設地	愛知県名古屋市中区三の丸二丁目24番	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、防火地域	平均居住人員	1,109 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,185 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店	評価の段階	
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2023年12月20日
敷地面積	6,582 m ²	作成者	
建築面積	2,231 m ²	確認日	2023年12月22日
延床面積	25,649 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値
 ②建築物の取組み
 ③上記+②以外のオンサイト手法
 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.8

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 「三の丸地区のまち・人・自然を未来に「むすぶ」」をコンセプトに、名古屋城三の丸官庁街の景観との調和、本町通りを軸としたウォークアブルな都市空間、外観の生態系と応答する「三の丸の森」、新しい官庁施設としてウェルネスな執務空間を備えた合同庁舎		その他 ・災害対策として一時帰宅困難者の受け入れスペースの確保、災害時の情報発信が可能なデジタルサイネージの設置 ・建物屋上に太陽光発電設備を設置
Q1 室内環境 ・執務室のCO ₂ 温度を計測し、在室状況に合わせた換気量を供給できるシステムを採用 ・熱負荷の多い東西外壁面の開口部を最小限にすることで、外部熱負荷を抑える	Q2 サービス性能 ・災害時の対応として、7日分の上水及び雑用水の確保、緊急時の排水槽の確保 ・外観の景観、三の丸の森と連続する木を基調とした温かみのある内装計画	Q3 室外環境(敷地内) ・外観の豊かな自然環境に調和する樹種により構成した、地域に根付いた緑陰空間の創出 ・名古屋城の歴史的な景観、三の丸官庁街の外観構成を踏襲した影が深い横連窓の外観
LR1 エネルギー ・自然通風を誘引し日射を遮るエアキャッチフィン ・断熱、遮熱効果の大きいLow-Eペアガラス ・高効率機器の採用 ・人検知センサーを用いた執務室の照明制御 ・BEMSによる用途別のエネルギー消費量把握	LR2 資源・マテリアル ・雨水をトイレ洗浄水として利用、節水型衛生器具の採用 ・リサイクル材を複数採用	LR3 敷地外環境 ・職員、来庁者のための駐輪場・駐車場を適切に確保し、周辺環境での渋滞緩和や路上駐車を抑制 ・シェアサイクルポートの設置の行い、代替交通手段を整備することで自動車の利用を抑制

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋第4地方合同庁舎

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策			4.6
LR1 エネルギー	4.8	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.4	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生			4.7
Q3.1 生物環境の保全と創出	5.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会			3.4
LR2.1 水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.6
2. 自然共生	評価点 = 4.7
3. 循環型社会	評価点 = 3.4

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。